

令和8年4月1日

# 令和8年度 府中市立住吉小学校 学校経営計画

府中市立住吉小学校  
校長 下条 知淑

本校は「学力の向上」「安心・安全な学校づくり」を重点課題とし、「府中型コミュニティスクール」、「小中連携」など地域連携協働の取組を通して、「第三次府中市学校教育プラン」の実現を目指します。

## 1 学校教育目標

学校や郷土を愛し、知・徳・体の調和のとれた「誇りのもてるふるさと府中を創り、世界に活躍する 府中っ子」を育成する。

◎かしこく（問題解決力） やさしく（人間関係形成力） たくましく（実践力）

## 2 目指す学校像（基本理念）

(1) 子どもにとって、共に学んだことを誇れる学校を目指します。

- ア 授業が楽しくてよく分かる。
- イ 友だち関係が安定していて教室に居場所がある。
- ウ 苦しいことを乗り越え、やり遂げた達成感がある。
- エ 学校がきれいである明るい雰囲気がある。

(2) 教職員にとって、共に働いたことを誇れる学校を目指します。

- ア 目標とする同僚や先輩がいる。
- イ 悩みを安心して話せ、互いに助け合える。
- ウ 指導力が向上したと実感できる。

(3) 保護者・地域にとって誇れる学校を目指します。

- ア 子育ての不安や悩みに寄り添って聞いてくれる学校。
- イ 適確なアドバイスがあり、素早く対応してくれる学校。
- ウ 保護者・地域への情報提供により、様子がよく分かる学校。
- エ 保護者・地域と共に健全育成を図ろうとする学校。
- オ 保護者・地域の力が活かされているという実感がある学校。
- カ 万が一の場合、防災の拠点としての組織、施設・設備が充実している学校。

## 3 期待する教師像 ～教師は学校にとって最大の教育環境。「チーム住吉 2.0」の精神で～

(1) 愛情あふれる教師像をめざします（児童愛、教育愛、同僚愛、学校愛、地域愛）

- ア 子どもを一人の人間として尊び、子どもの心に寄り添う。
- イ 子どもの言葉に耳を傾け、一方的、思いこみによる不適切な指導、体罰は行わない。
- ウ 保護者の言葉と意思を受け止め、常に傾聴を心がける。
- エ 「チーム住吉」の一員としての自覚をもち、助け合い、協働する。

#### 4 中期的な目標と今年度の取り組み

(1) 「確かな学力」に基づく問題解決能力を育成します。

目標：低学年…90%の定着 高学年…85%の定着

(2) 基礎・基本の定着、「教えることはしっかりと教える」を合い言葉に定着を図ります。

ア 繰り返し学習と個別指導、デジタルコンテンツを活用した補充的学習。

イ 家庭学習の充実(目安:学年×10分)。

ウ 地域と連携して実施する「放課後算数教室」(年間20回以上)。

エ タブレット端末等ICT機器や教材の活用、個に応じた支援の推進。

オ 英語での国際コミュニケーション能力の基礎を養う活動の充実(ALTの指導、5年TGG学習等)。

(3) 学習規律の定着と確立を図ります。

ア 授業の最初と最後のあいさつの定着。(「起立」「礼」「始めます」「終わります」)

イ 授業中の発言の仕方、「はい」「立つ」「です」の共通指導の定着。

ウ 学習に使用する用具の指導「住吉小スタンダード」を家庭と連携、協力して定着。

エ 授業改善を進め、教師の授業力向上。

オ 主体的、対話的で深い学びのある授業への改善。

カ 府中市教育委員会の示す「グランドデザイン」の「4つの学び」を踏まえた授業改善。

キ 授業評価(年間3回指導略案、授業公開)の実施。

ク 若手教員研修(3年次まで)の年間4回以上(主幹、主任による指導)実施。

ケ ICT活用、ユニバーサル・デザイン(UD)の視点を取り入れた授業改善。

(4) 言語環境及び言語活動の充実を図ります。

ア 正しく美しい日本語に触れる校内環境の整備(教室・廊下)、学校図書館支援員との連携。

イ 読書指導の時間(週1時間目安)の確実な実施。

ウ 保護者、地域との連携による読み聞かせ(週1回程度)。

#### 5 多様化・国際化する予測困難な社会で生きるための人間関係形成力を育成するために

目標：いじめ、不登校の早期解消、ふるさと意識の向上

(1) 児童個々の特性等の理解ときめ細やかな対応を図ります。

ア 児童理解研修の実施(年間2回程度)、生活指導に関する情報交換(週1回程度)。

イ 通常の学級と特別支援教室「ひばり」、難聴言語障害学級「きこえとことばの教室」との連携推進。

ウ 読み書き能力向上のための取組による個々の特性に応じた支援の推進。

(2) 特別支援教育の推進により、個々の特性に応じた指導・支援の充実を図ります。

ア 特別支援教育コーディネーターを中心とした、迅速で継続的な支援。

イ 合理的配慮による個々の特性に応じた支援の推進。

ウ ICTの活用による個々の特性に応じた支援の工夫。

エ 「学校生活支援シート」による保護者との連携、連携型個別指導計画による在籍学級の担任と特別支援教室「ひばり」の担任との連携の推進。

(ア)特別支援教室「ひばり」においては、「第4次府中市特別支援教育推進計画」及び「特別支援教室ガイドライン」に基づき、通常の学級での特別な支援の必要な児童に対して、個々の特性に応じた専門性

の高い指導・支援を行う。日々の連絡帳・学期末の個人面談による保護者との連携、連携型個別指導計画による在籍学級の担任との連携を推進し、関係者の共通理解による指導・支援を徹底する。「読み書き障害」に対しての支援方法を充実させ、拠点校・巡回校において、早期支援の実施を図る。

(イ)難聴言語障害通級指導学級「きこえとことばの教室」においては、「第4次府中市特別支援教育推進計画」に基づき、通常の学級での特別な支援の必要な児童に対して、個々の特性に応じた専門性の高い指導・支援を行う。個別指導計画・日々の連絡帳・指導期間後の個人面談により保護者・在籍学級の担任との連携を推進し、個々の特性に応じた指導・支援を徹底する。府中市内小中学校に対して、難聴言語障害についての理解推進を図る。

オ 障害理解教育の推進により、校内での居場所作り体制を充実。

カ 幼稚園、保育園などの就学前機関との連携を推進し、情報の連携と早期の支援を徹底。

(3) 地域人材の活用を通して地域の方々と交流し、ふるさと意識を醸成します。

ア PTA、青少対、各町会、民生委員児童委員等との連携事業の充実と推進。

(4) 学習規律、生活規律を定着、確立します。

ア 規範意識、危険回避能力を育てるセーフティ教室・情報モラル、薬物への対応。

イ テレビ、ゲーム、スマホの使用時間についての指導(利用時間2時間以内)。

(5) 校内支援体制をさらに充実します。

ア 校内委員会、いじめ・不登校防止対策委員会を中心とした組織的支援。

イ スクールカウンセラーを中心とした教育相談体制の一層の充実。

ウ 個別のケースに応じた他機関連携(はばたき、SSW、みらい、児童相談所、病院等)の充実。

(6) 持続可能な開発のための教育(E S D)を推進します。

ア 現代社会の課題を自らの問題としてとらえ、環境や平和、人権等の持続可能な社会の構築のために解決が必要な問題に対する指導を、全教育活動をとおして推進。

## 6 困難に負けない強い体と意思、実践力を育てるために

目標：前年比5%の体力向上

- (1) 十分な運動量の確保を図ります。(体育指導、休み時間遊び、1日10分運動)
- (2) 学校全体の体力づくりを推進します。(持久走や縄跳び、年間を通じた学習カードの活用)
- (3) 安全な体育の授業を実施します。(危険予知、週案への記載、安全対策の共通実践)
- (4) 健康指導、食育を推進します。(養護教諭と栄養士との連携)
- (5) 確実なアレルギー対応を行います。(養護教諭、給食主任を中心とした予防と適切な対応)

## 7 安心・安全の学校づくりのために

目標：学校事故ゼロ

(1) 教師の危険予知及び回避能力の向上を図ります。

ア 安全対策、週案への記入と日直による見回りの徹底。

イ 危険箇所の発見、トラブルの早期発見、担任への支援。

ウ いじめに関する教員研修の実施により、いじめの早期発見・早期対応を徹底。

エ 実践的な不審者対応訓練を実施による危機対応力の向上。

- (2) 不登校、いじめに対しては、即時、組織的に対応します。
  - ア サポートルームによる不登校対応、個に応じた支援の推進。
  - イ いじめ防止基本方針に基づく、いじめ・不登校防止対策委員会による早期解決。
- (3) 防災教育・安全教育を推進します。
  - ア 水害対応(府中市防災危機管理課との連携)5年生。
  - イ 「学校防災の日」による引き取り訓練の実施。
  - ウ 民間スイミングスクールと連携した着衣泳の実施。
  - エ セーフティ教室、交通安全教室の実施による犯罪被害防止、交通事故防止の推進。
- (4) アレルギー対応を着実に進めます。
  - ア 対応手順及び緊急時の連絡体制の確認。
  - イ 要配慮児童の共通理解、共通対応(配食及びアレルギー対応等の実技研修)。
- (5) 熱中症対策を徹底します。
  - ア 熱中症警戒アラート、WBGT 計による熱中症の危険の常時把握と早期対応。
  - イ 府中市教育委員会の「熱中症予防要配慮期間(6月～9月)」の屋外での活動の自粛。
  - ウ 簡易ミストの設置等による校庭環境整備。

## 8 保護者・地域とつくる学校、地域協働の学校の実現のために

- (1) スクールコミュニティ協議会、地域コーディネーターを活用した教育活動を展開します。
  - ア 「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」として、地域の人材活用を通じたふるさと学習の実施(全学年とも年間3回以上)。
  - イ 地域と連携した補習授業(放課後算数教室)の実施。
- (2) 地域の防災拠点としての体制を維持、発展させます。
  - ア 地域協働の避難所開設訓練[防災研修]…10月に5年児童参加。
  - イ スクールコミュニティ協議会を活用した地域防災会議(避難所運営委員会)の実施。
  - ウ 第八中学校区での小中連携事業の推進。
  - エ 「府中の架け橋プログラム」を踏まえた、幼稚園・保育園等との連携の推進。
- (3) 学校経営支援員、校務改善支援員及び合理的配慮支援員を積極的に活用します
  - ア 学校経営支援員、子どもと家庭の支援事業を活用し、個に応じた支援の実施。
    - (ア)算数を中心とした学習支援(TT指導・1, 2年生で実施)。
    - (イ)生活指導支援(特別支援、不登校対応、サポートルーム支援)。
  - イ 校務改善支援員を活用した副校長及び担当事務の軽減。
    - (ア)副校長の事務処理への支援。
    - (イ)教員が行う事務への支援(会計処理及び銀行対応、学年ホームページの更新)。
  - ウ 合理的配慮支援員を活用し、学習上、生活上「困り感」のある児童への支援の推進。
    - (ア)子どもの教育的ニーズに応じた安全の確保、学習支援、生活支援の実施。
    - (イ)保護者、みらい等行政、医療機関等、関係機関との連携強化(関係者会議の実施)。

以上